

## 第 2 章

### 障害のある人を取り巻く現状

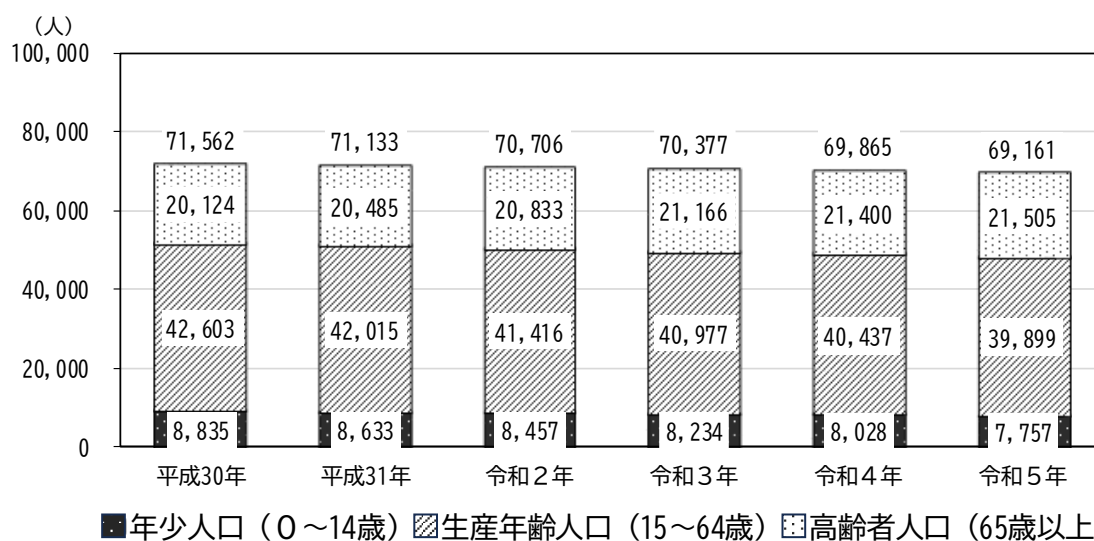
# 1 統計データに基づく障害のある人の現状

## (1) 人口の状況

本市の総人口は、減少傾向で推移し、令和5年で69,161人となっています。

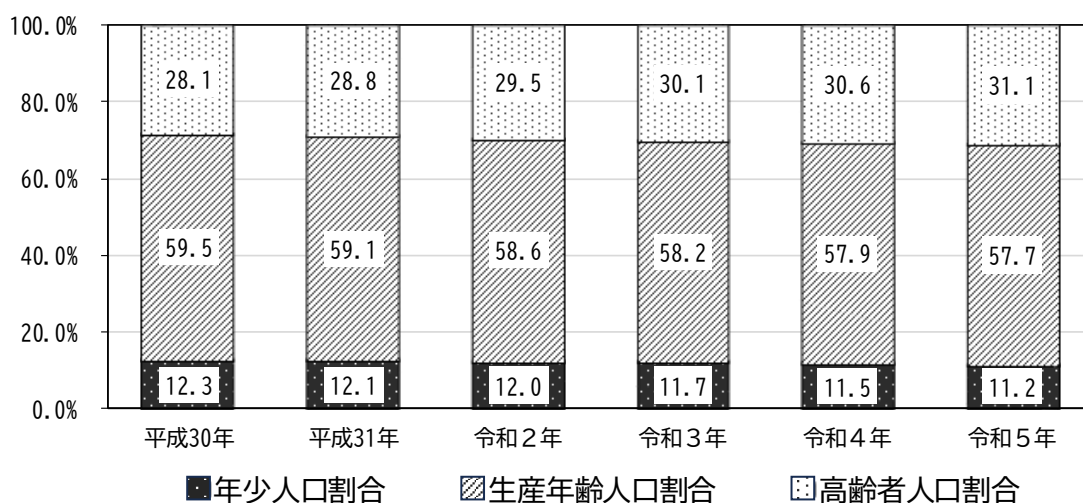
また、年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口と生産年齢人口は年々減少しているものの、高齢者人口は増加傾向にあり、今後も少子高齢化が進むと予測されます。

<総人口及び年齢3区分別人口の推移>



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

<年齢3区分別人口の割合の推移>

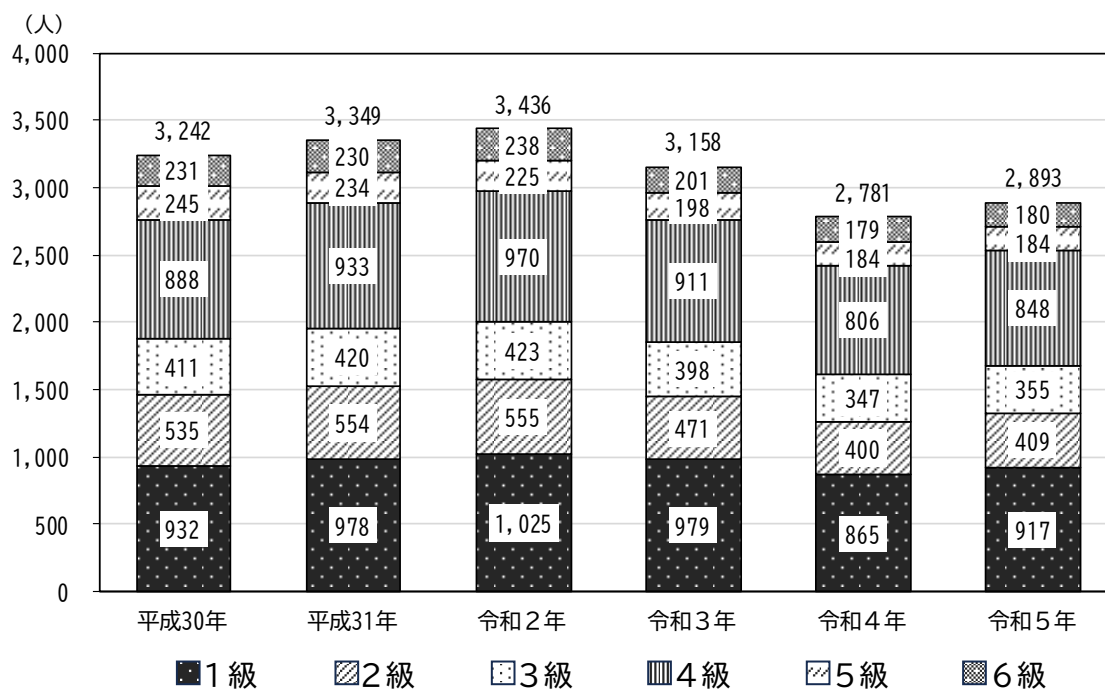


資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

## (2) 身体障害者手帳所持者数の推移

身体障害者手帳所持者は、令和5年で2,893人となっています。手帳の等級については、いずれの年も1級が約30%で最も多くなっています。

<身体障害者手帳所持者数の推移>



資料：福祉課（各年4月1日現在）

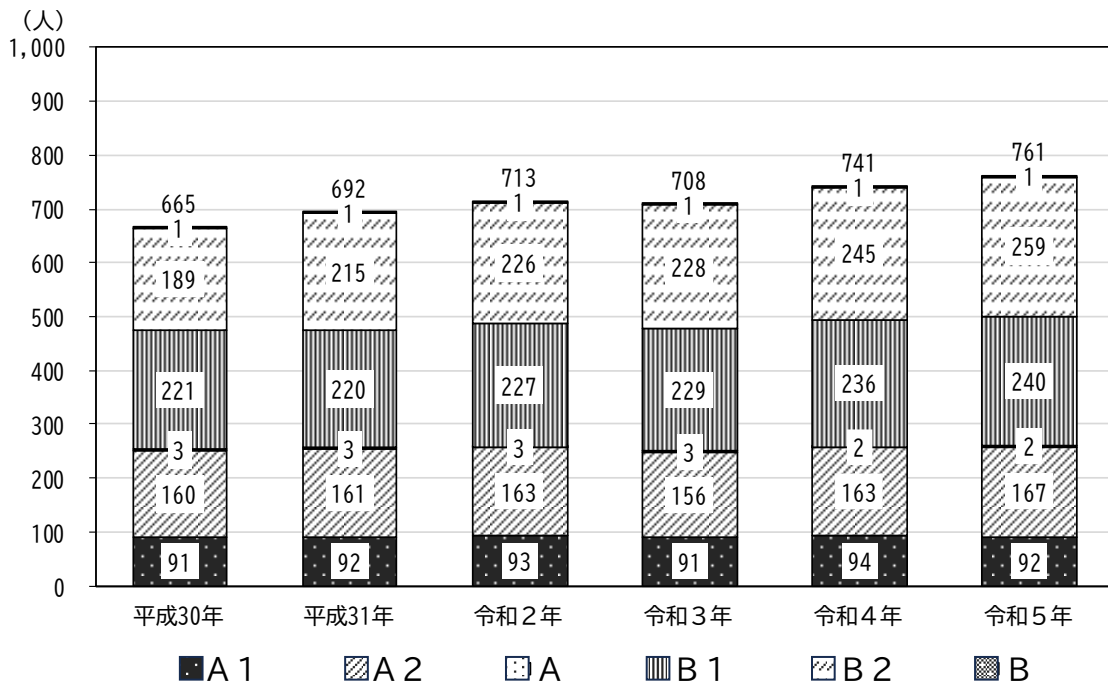
<身体障害者手帳所持者数の推移 等級別>

		平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
等級	1級	932 28.7%	978 29.2%	1,025 29.8%	979 31.0%	865 31.1%	917 31.7%
	2級	535 16.5%	554 16.5%	555 16.2%	471 14.9%	400 14.4%	409 14.1%
	3級	411 12.7%	420 12.5%	423 12.3%	398 12.6%	347 12.5%	355 12.3%
	4級	888 27.4%	933 27.9%	970 28.2%	911 28.8%	806 29.0%	848 29.3%
	5級	245 7.6%	234 7.0%	225 6.5%	198 6.3%	184 6.6%	184 6.4%
	6級	231 7.1%	230 6.9%	238 6.9%	201 6.4%	179 6.4%	180 6.2%
合計		3,242	3,349	3,436	3,158	2,781	2,893

### (3) 療育手帳所持者数の推移

療育手帳所持者は、令和5年で761人となっています。程度別でみると、「B2」が259人で最も多く、次いで「B1」が240人、「A2」が167人となっています。なお、「B1」と「B2」で、全体の65.5%を占める状況となっています。

<療育手帳所持者数の推移>



資料：福祉課（各年4月1日現在）

<療育手帳所持者数の推移 程度別>

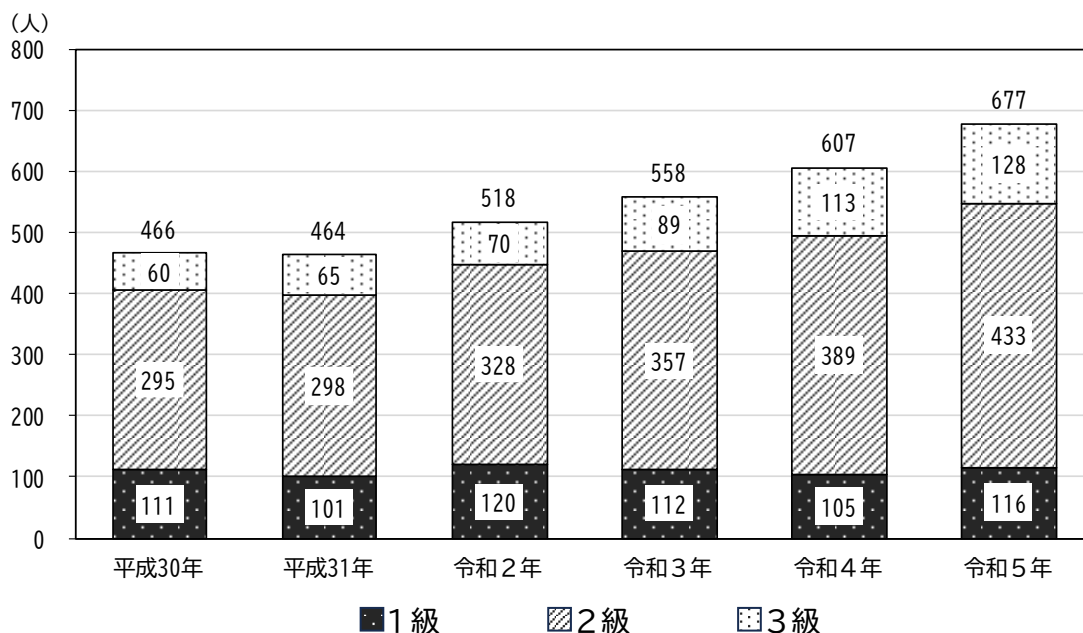
		平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
程度	A1	91 13.7%	92 13.3%	93 13.0%	91 12.9%	94 12.7%	92 12.1%
	A2	160 24.1%	161 23.3%	163 22.9%	156 22.0%	163 22.0%	167 21.9%
	A	3 0.5%	3 0.4%	3 0.4%	3 0.4%	2 0.3%	2 0.3%
	B1	221 33.2%	220 31.8%	227 31.8%	229 32.3%	236 31.8%	240 31.5%
	B2	189 28.4%	215 31.1%	226 31.7%	228 32.2%	245 33.1%	259 34.0%
	B	1 0.2%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%
合計		665	692	713	708	741	761

#### (4) 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

精神障害者保健福祉手帳所持者は、令和5年で677人となっています。等級別で見ると、「2級」が433人で最も多く、次いで「3級」が128人、「1級」が116人となっています。

また、自立支援医療（精神通院）受給者は、令和5年で1,173人となっています。

<精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移>



資料：福祉課（各年4月1日現在）

<精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移 等級別>

		平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
等級	1級	111	101	120	112	105	116
		23.8%	21.8%	23.2%	20.1%	17.3%	17.1%
	2級	295	298	328	357	389	433
		63.3%	64.2%	63.3%	64.0%	64.1%	64.0%
	3級	60	65	70	89	113	128
		12.9%	14.0%	13.5%	15.9%	18.6%	18.9%
合計		466	464	518	558	607	677

<自立支援医療（精神通院）受給者数の推移>

	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
自立支援医療（精神通院）受給者	898	911	964	996	1,118	1,173

資料：福祉課（各年4月1日現在）

## (5) 難病患者の現状

特定疾患の対象は、指定難病と小児慢性特定疾病であり、令和5年4月現在、指定難病は338疾病、小児慢性特定疾病は788疾病となります。

令和5年4月1日現在、特定医療費（指定難病）受給者証及び小児慢性特定疾病医療費受給者証の交付を受けている人は638人で、平成30年と比較すると120人の増加となっています。

### <特定医療費（指定難病）受給者証及び小児慢性特定疾病医療費受給者証交付者の推移>

	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
特定医療費	447	480	511	562	550	574
小児慢性特定疾病医療費	71	63	65	55	59	64
合計	518	543	576	617	609	638

資料：栃木県（各年4月1日現在）

## 2 アンケート調査結果に基づく障害のある人の状況

### (1) 調査の概要

障害のある人の生活状況や障害福祉サービス等の利用状況・利用意向等を把握するとともに、障害福祉に対する意識や意向等を把握し、今後の施策の改善及び展開、充実を図ることを目的に実施しました。

#### ①調査対象者

- 調査対象者：市内在住の障害のある人 500人  
(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者及び難病患者)

#### ②調査方法・調査期間

- 調査方法：郵送配布、郵送回収
- 調査期間：令和4年12月7日から令和5年1月24日まで

#### ③回収結果

- 有効回収数：222件（回収率：44.4%）

#### ④調査項目

調査項目は、以下の12項目となります。

- 1 お答えいただく方について
- 2 あなたご自身のことについて
- 3 あなたの障害の状況について
- 4 あなたの介助について
- 5 あなたの日中活動や就労について
- 6 障害のある児童について
- 7 障害福祉サービス等の利用について
- 8 相談について
- 9 差別について
- 10 権利擁護について
- 11 災害時の避難等について
- 12 大田原市のまちづくりについて

## (2) 主な調査結果

### ①現在の暮らしについて

現在の暮らしについては、「家族と暮らしている」が 82.0%で最も高く、次いで「障害者支援施設で暮らしている」が 8.6%、「一人で暮らしている」が 5.0%となっています。

障害種別でみると、知的障害者では、「障害者のグループホームで暮らしている」が 5.6%、「障害者支援施設で暮らしている」が 19.7%と、他の障害種別と比べて高くなっています。

	全体 n=222	身体障害者 n=92	知的障害者 n=71	精神障害者 n=24	難病患者 n=70	0～17歳 n=35
一人で暮らしている	5.0%	9.8%	0.0%	0.0%	5.7%	0.0%
家族と暮らしている	82.0%	79.3%	73.2%	75.0%	87.1%	97.1%
障害者のグループホームで暮らしている	2.3%	1.1%	5.6%	4.2%	1.4%	0.0%
障害者支援施設で暮らしている	8.6%	7.6%	19.7%	8.3%	4.3%	0.0%
高齢者施設で暮らしている	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%
病院に入院している	0.9%	1.1%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
その他	0.5%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	2.9%
無回答	0.5%	1.1%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%



②将来の暮らしについて

将来の暮らしについては、「家族と暮らしたい」が 55.9%で最も高く、次いで「障害者支援施設で暮らしたい」が 16.2%、「一人暮らしをしたい」が 13.5%となっています。

障害種別でみると、知的障害者では、「障害者のグループホームで暮らしたい」が 11.3%、「障害者支援施設で暮らしたい」が 38.0%、精神障害者では、「一人暮らしをしたい」が 20.8%と、他の障害種別と比べて高くなっています。

0～17歳でみると、「家族と暮らしたい」が 60.0%で最も高く、次いで「障害者支援施設で暮らしたい」が 20.0%、「一人暮らしをしたい」が 14.3%となっています。

	全体 n=222	身体障害者 n=92	知的障害者 n=71	精神障害者 n=24	難病患者 n=70	0～17歳 n=35
一人暮らしをしたい	13.5%	17.4%	4.2%	20.8%	7.1%	14.3%
家族と暮らしたい	55.9%	52.2%	36.6%	50.0%	68.6%	60.0%
障害者のグループホームで暮らしたい	4.1%	4.3%	11.3%	0.0%	2.9%	0.0%
障害者支援施設で暮らしたい	16.2%	14.1%	38.0%	16.7%	5.7%	20.0%
高齢者施設で暮らしたい	1.8%	2.2%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%
その他	4.5%	3.3%	5.6%	12.5%	5.7%	2.9%
無回答	4.1%	6.5%	4.2%	0.0%	5.7%	2.9%

## ③介助者の年齢について

介助者の年齢については、「40～49歳」が28.6%で最も高く、次いで「60～69歳」が25.5%、「50～59歳」が23.5%となっています。

障害種別でみると、介助者の年齢が60歳以上の割合は、身体障害者が55.2%、知的障害者が32.0%、精神障害者が70.0%、難病患者が50.0%となっています。

0～17歳でみると、「40～49歳」が65.6%で最も高く、次いで「30～39歳」が28.1%、「50～59歳」が6.3%となっています。

	全体 n=98	身体障害者 n=38	知的障害者 n=50	精神障害者 n=10	難病患者 n=20	0～17歳 n=32
20歳未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30～39歳	11.2%	5.3%	6.0%	0.0%	5.0%	28.1%
40～49歳	28.6%	10.5%	32.0%	10.0%	20.0%	65.6%
50～59歳	23.5%	26.3%	28.0%	20.0%	20.0%	6.3%
60～69歳	25.5%	44.7%	28.0%	40.0%	30.0%	0.0%
70歳以上	9.2%	10.5%	4.0%	30.0%	20.0%	0.0%
無回答	2.0%	2.6%	2.0%	0.0%	5.0%	0.0%

#### ④外出時の困りごとについて

外出時の困りごとについては、「公共交通機関が少ない（ない）」が19.0%で最も高く、次いで「困った時にどうすればいいのか心配」が18.0%、「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」が17.5%となっています。

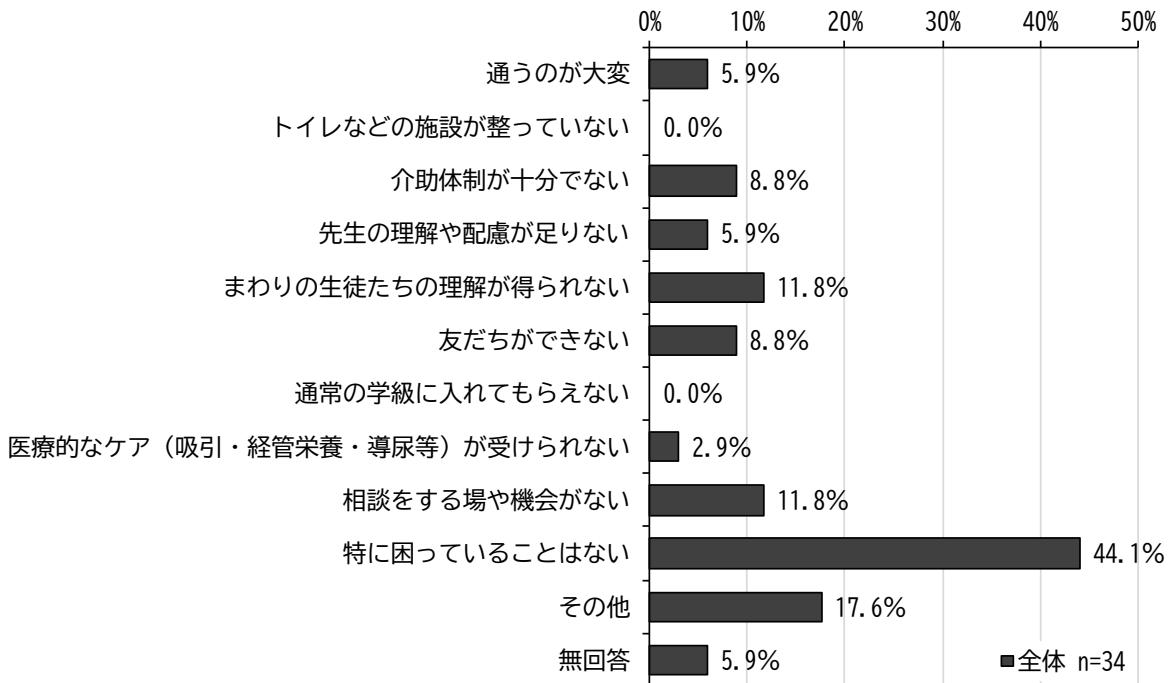
障害種別で見ると、身体障害者では、「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」、知的障害者では、「困った時にどうすればいいのか心配」、精神障害者では、「外出にお金がかかる」、難病患者では、「発作など突然の身体の変化が心配」の割合が最も高くなっています。

0～17歳で見ると、「困った時にどうすればいいのか心配」が32.4%で最も高く、次いで「周囲の目が気になる」が23.5%、「外出にお金がかかる」が17.6%となっています。

	全体 n=211	身体障害者 n=88	知的障害者 n=69	精神障害者 n=20	難病患者 n=68	0～17歳 n=34
公共交通機関が少ない（ない）	19.0%	20.5%	15.9%	20.0%	19.1%	8.8%
列車やバスの乗り降りが困難	9.5%	17.0%	8.7%	5.0%	8.8%	0.0%
道路や駅に階段や段差が多い	9.0%	17.0%	7.2%	5.0%	10.3%	2.9%
切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	5.7%	6.8%	8.7%	15.0%	1.5%	2.9%
外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）	17.5%	22.7%	26.1%	0.0%	13.2%	5.9%
介助者が確保できない	5.2%	6.8%	8.7%	5.0%	0.0%	2.9%
外出にお金がかかる	11.4%	11.4%	15.9%	25.0%	8.8%	17.6%
周囲の目が気になる	10.4%	6.8%	15.9%	20.0%	10.3%	23.5%
発作など突然の身体の変化が心配	12.3%	14.8%	13.0%	20.0%	20.6%	2.9%
困った時にどうすればいいのか心配	18.0%	11.4%	30.4%	20.0%	11.8%	32.4%
その他	8.1%	8.0%	8.7%	5.0%	10.3%	14.7%
無回答	33.6%	30.7%	14.5%	40.0%	36.8%	26.5%

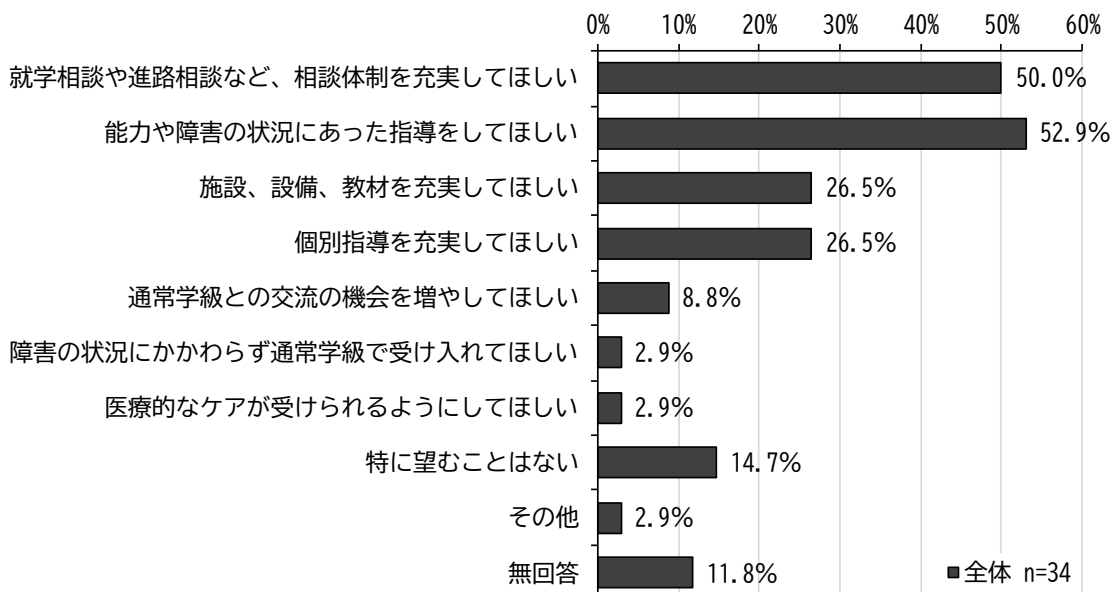
⑤ 幼稚園・学校などに通っているの困りごと

幼稚園・学校などに通っているの困りごとについては、「まわりの生徒たちの理解が得られない」、「相談をする場や機会がない」がともに11.8%で最も高く、次いで「介助体制が十分でない」、「友だちができない」がともに8.8%となっています。



⑥ 幼稚園・学校などに望むこと

幼稚園・学校などに望むことについては、「能力や障害の状況にあった指導をしてほしい」が52.9%で最も高く、次いで「就学相談や進路相談など、相談体制を充実してほしい」が50.0%、「施設、設備、教材を充実してほしい」、「個別指導を充実してほしい」がともに26.5%となっています。



⑦就労支援として必要だと思うこと

就労支援として必要だと思うことについては、「職場の障害者への理解」が52.5%で最も高く、次いで「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が50.3%、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が45.4%となっています。

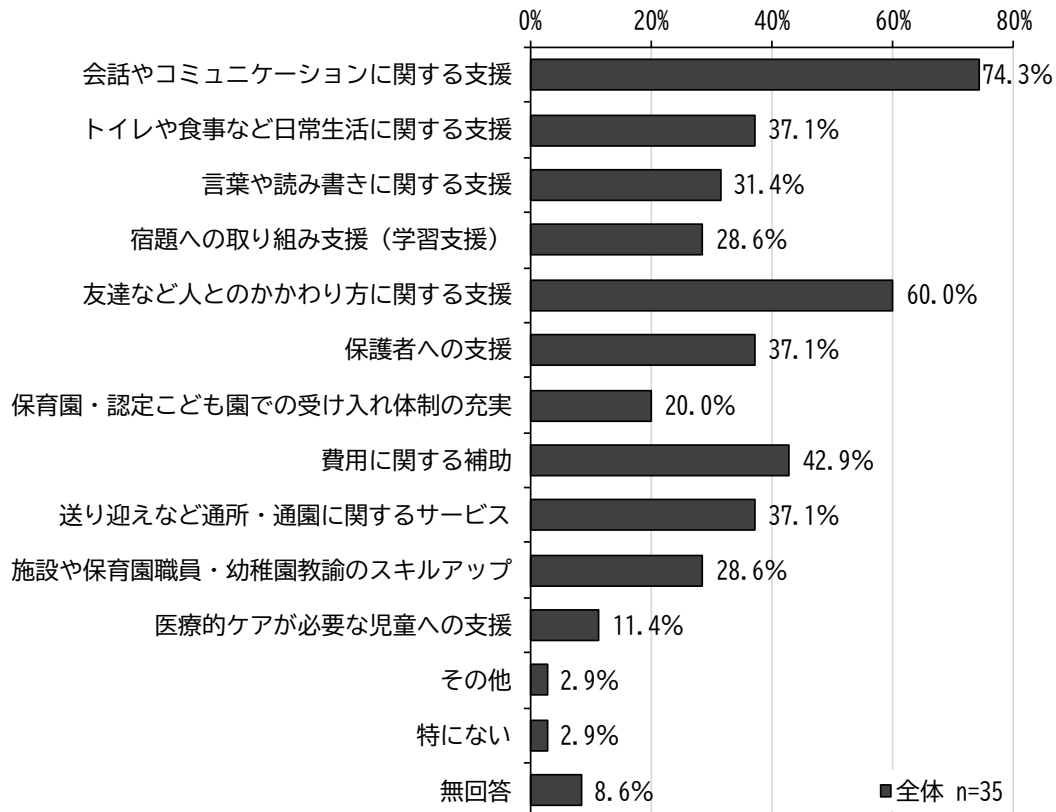
障害種別でみると、身体障害者では、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」、知的障害者、精神障害者、難病患者では、「職場の障害者への理解」の割合が最も高くなっています。

また、難病患者では、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」、「在宅勤務の拡充」、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」、「企業ニーズにあった就労訓練」の割合が、他の障害種別と比べて高くなっています。

	全体 n=183	身体障害者 n=89	知的障害者 n=51	精神障害者 n=24	難病患者 n=67	0~17歳 n=0
通勤手段の確保	35.5%	38.2%	45.1%	37.5%	35.8%	-
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	25.7%	27.0%	21.6%	8.3%	31.3%	-
短時間勤務や勤務日数等の配慮	45.4%	47.2%	31.4%	37.5%	55.2%	-
在宅勤務の拡充	24.0%	21.3%	13.7%	12.5%	37.3%	-
職場の障害者への理解	52.5%	44.9%	54.9%	54.2%	61.2%	-
職場の上司や同僚に障害の理解があること	50.3%	41.6%	47.1%	50.0%	58.2%	-
職場で介助や援助等が受けられること	24.6%	18.0%	33.3%	25.0%	28.4%	-
就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	19.1%	16.9%	21.6%	16.7%	22.4%	-
企業ニーズにあった就労訓練	16.9%	13.5%	13.7%	8.3%	23.9%	-
仕事についての職場外での相談対応、支援	23.5%	20.2%	17.6%	20.8%	26.9%	-
その他	3.3%	4.5%	2.0%	8.3%	4.5%	-
無回答	18.6%	18.0%	25.5%	16.7%	14.9%	-

## ⑧お子さんが受けている支援等で充実させるべきと思うこと

お子さんが受けている支援等で充実させるべきと思うことについては、「会話やコミュニケーションに関する支援」が74.3%で最も高く、次いで「友達など人のかかわり方に関する支援」が60.0%、「費用に関する補助」が42.9%となっています。



⑨障害福祉サービス等の利用状況及び5年後の利用意向について

障害福祉サービス等の利用状況及び5年後の利用意向について、障害種別及び0～17歳の結果の上位3位までをまとめたものが下表となっています。

<障害福祉サービスの利用状況及び5年後の利用意向>

■身体障害者 n=92

	1位	2位	3位
利用状況	計画相談支援 23.9%	生活介護 13.0%	短期入所（ショートステイ） 10.9%
5年後の利用意向	計画相談支援 20.7%	生活介護 16.3%	居宅介護（ホームヘルプ） 短期入所（ショートステイ） 13.0%

■知的障害者 n=71

	1位	2位	3位
利用状況	計画相談支援 59.2%	生活介護 42.3%	放課後等デイサービス 29.6%
5年後の利用意向	計画相談支援 39.4%	生活介護 35.2%	施設入所支援 31.0%

■精神障害者 n=24

	1位	2位	3位
利用状況	計画相談支援 29.2%	生活介護 20.8%	就労継続支援（B型） 16.7%
5年後の利用意向	計画相談支援 29.2%	生活介護 16.7%	短期入所（ショートステイ） 施設入所支援 地域移行支援 12.5%

■難病患者 n=70

	1位	2位	3位
利用状況	計画相談支援 14.3%	自立訓練（機能訓練） 5.7%	居宅介護（ホームヘルプ） 生活介護 就労継続支援（B型） 4.3%
5年後の利用意向	計画相談支援 14.3%	重度障害者等包括支援 10.0%	居宅介護（ホームヘルプ） 自立訓練（機能訓練） 8.6%

■0～17歳 n=35

	1位	2位	3位
利用状況	放課後等デイサービス 80.0%	計画相談支援 40.0%	児童発達支援 34.3%
5年後の利用意向	放課後等デイサービス 42.9%	計画相談支援 22.9%	自立訓練（生活訓練） 20.0%

<地域生活支援事業の利用状況及び5年後の利用意向>

■身体障害者 n=92

	1位	2位	3位
利用状況	福祉タクシー利用券等の公共交通機関利用助成給付 16.3%	自立支援医療(更生医療、育成医療、精神通院医療) 9.8%	相談支援事業(一般的な相談) 日常生活用具給付事業 7.6%
5年後の利用意向	福祉タクシー利用券等の公共交通機関利用助成給付 29.3%	緊急の短期入所受け入れ 15.2%	相談支援事業(一般的な相談) 14.1%

■知的障害者 n=71

	1位	2位	3位
利用状況	日中一時支援事業 26.8%	自立支援医療(更生医療、育成医療、精神通院医療) 14.1%	相談支援事業(一般的な相談) 緊急の短期入所受け入れ 7.0%
5年後の利用意向	緊急の短期入所受け入れ 22.5%	日中一時支援事業 18.3%	成年後見制度利用支援事業 16.9%

■精神障害者 n=24

	1位	2位	3位
利用状況	自立支援医療(更生医療、育成医療、精神通院医療) 41.7%	福祉タクシー利用券等の公共交通機関利用助成給付 16.7%	成年後見制度利用支援事業 12.5%
5年後の利用意向	福祉タクシー利用券等の公共交通機関利用助成給付 29.2%	自立支援医療(更生医療、育成医療、精神通院医療) 20.8%	相談支援事業(一般的な相談) 移動支援事業 16.7%

■難病患者 n=70

	1位	2位	3位
利用状況	相談支援事業(一般的な相談) 日常生活用具給付事業 5.7%	福祉タクシー利用券等の公共交通機関利用助成給付 自立支援医療(更生医療、育成医療、精神通院医療) 4.3%	日中一時支援事業 訪問入浴 2.9%
5年後の利用意向	福祉タクシー利用券等の公共交通機関利用助成給付 17.1%	相談支援事業(一般的な相談) 11.4%	日常生活用具給付事業 10.0%

■0～17歳 n=35

	1位	2位	3位
利用状況	日中一時支援事業 25.7%	相談支援事業(一般的な相談) 8.6%	日常生活用具給付事業 緊急の短期入所受け入れ 2.9%
5年後の利用意向	相談支援事業(一般的な相談) 20.0%	日中一時支援事業 緊急の短期入所受け入れ 17.1%	日常生活用具給付事業 グループホーム体験 福祉タクシー利用券等の公共交通機関利用助成給付 8.6%



⑩障害や福祉サービスなどに関する情報の入手先について

障害や福祉サービスなどに関する情報の入手先については、「インターネット」が29.7%で最も高く、次いで「サービス事業所の人や施設職員」が26.6%、「かかりつけの医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職」が23.4%となっています。

障害種別でみると、身体障害者、精神障害者では、「かかりつけの医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職」、知的障害者では、「サービス事業所の人や施設職員」、難病患者では、「インターネット」の割合が最も高くなっています。また、精神障害者では、「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」の割合が、他の障害種別と比べて高くなっています。

0～17歳でみると、「サービス事業所の人や施設職員」が48.6%で最も高く、次いで「家族や親せき、友人・知人」が40.0%、「インターネット」、「かかりつけの医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職」がともに37.1%となっています。

	全体 n=222	身体障害者 n=92	知的障害者 n=71	精神障害者 n=24	難病患者 n=70	0～17歳 n=35
本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	22.1%	19.6%	22.5%	12.5%	22.9%	17.1%
「広報おたわら」などの広報誌	23.0%	19.6%	12.7%	20.8%	32.9%	22.9%
インターネット	29.7%	25.0%	14.1%	8.3%	42.9%	37.1%
大田原市ホームページ	17.6%	20.7%	9.9%	0.0%	28.6%	2.9%
SNS (LINE・Facebook・Twitter等)	9.9%	8.7%	1.4%	0.0%	17.1%	14.3%
家族や親せき、友人・知人	21.6%	14.1%	26.8%	12.5%	15.7%	40.0%
サービス事業所の人や施設職員	26.6%	25.0%	53.5%	29.2%	12.9%	48.6%
相談支援事業所などの民間の相談窓口	7.2%	9.8%	8.5%	16.7%	7.1%	11.4%
行政機関の相談窓口 (市役所、栃木県県北健康福祉センター)	12.6%	16.3%	9.9%	4.2%	11.4%	11.4%
大田原市障害者相談支援センター	5.9%	8.7%	4.2%	16.7%	7.1%	8.6%
地域生活支援センター「ゆずり葉」	1.4%	2.2%	1.4%	4.2%	0.0%	0.0%
県北手話通訳派遣協会	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
かかりつけの医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職	23.4%	26.1%	12.7%	37.5%	24.3%	37.1%
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	7.2%	12.0%	4.2%	29.2%	5.7%	0.0%
障がい児者等保護者会など	3.2%	0.0%	8.5%	4.2%	0.0%	0.0%
障害者相談員 (ピアカウンセリング)	1.8%	4.3%	2.8%	4.2%	2.9%	2.9%
民生委員・児童委員	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
情報が得られない	3.6%	3.3%	2.8%	4.2%	1.4%	5.7%
その他	4.5%	4.3%	4.2%	4.2%	4.3%	8.6%
無回答	8.1%	10.9%	7.0%	8.3%	8.6%	2.9%

⑪コミュニケーションをとる上での困りごとについて

情報の入手時やコミュニケーションをとる上での困りごとについては、「うまく質問できない、伝えられない」が23.9%で最も高く、次いで「伝えたいことを理解してもらうのに時間がかかる」が18.5%、「相手の話す内容がわかりにくい」が12.2%となっています。

障害種別でみると、すべての障害種別で「うまく質問できない、伝えられない」の割合が最も高くなっています。また、知的障害者、精神障害者では、「伝えたいことを理解してもらうのに時間がかかる」の割合が、他の障害種別と比べて高くなっています。なお、「特に困ることはない」は、身体障害者で約4割、難病患者で約5割と、他の障害種別と比べて高くなっています。

	全体 n=222	身体障害者 n=92	知的障害者 n=71	精神障害者 n=24	難病患者 n=70	0~17歳 n=35
案内表示がわかりにくい	6.3%	6.5%	9.9%	4.2%	2.9%	8.6%
音声情報や文字情報が少ない	3.2%	3.3%	4.2%	8.3%	1.4%	2.9%
パソコンやスマートフォンが使えない	10.4%	15.2%	16.9%	25.0%	8.6%	5.7%
手話通訳、要約筆記者の数が少ない	1.4%	2.2%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
伝えたいことを理解してもらうのに時間がかかる	18.5%	10.9%	38.0%	29.2%	10.0%	22.9%
うまく質問できない、伝えられない	23.9%	16.3%	39.4%	41.7%	11.4%	25.7%
読むことが難しかったり、文章表現がわかりにくい	11.7%	12.0%	19.7%	8.3%	5.7%	8.6%
相手の話す内容がわかりにくい	12.2%	13.0%	19.7%	16.7%	5.7%	17.1%
特に困ることはない	39.2%	39.1%	18.3%	16.7%	52.9%	37.1%
その他	2.7%	1.1%	5.6%	0.0%	1.4%	8.6%
無回答	18.9%	23.9%	16.9%	20.8%	17.1%	11.4%

## ⑫差別や嫌な思いをしたことについて

差別や嫌な思いをしたことについては、「ない」が38.3%で最も高く、次いで「少しある」が31.1%、「ある」が18.5%となっています。

障害種別でみると、「ある」は、身体障害者が20.7%、知的障害者が25.4%、精神障害者が25.0%、難病患者が15.7%となっています。

	全体 n=222	身体障害者 n=92	知的障害者 n=71	精神障害者 n=24	難病患者 n=70	0～17歳 n=35
ある	18.5%	20.7%	25.4%	25.0%	15.7%	34.3%
少しある	31.1%	31.5%	36.6%	20.8%	31.4%	20.0%
ない	38.3%	37.0%	23.9%	37.5%	38.6%	40.0%
無回答	12.2%	10.9%	14.1%	16.7%	14.3%	5.7%

## ⑬差別や嫌な思いをした場所や出来事について

差別や嫌な思いをした場所や出来事については、「外出先(買い物等)」が50.0%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が24.5%、「学校」が21.8%となっています。

障害種別でみると、身体障害者、知的障害者では、「外出先(買い物等)」、精神障害者では、「病院などの医療機関」、難病患者では、「仕事場」、「外出先(買い物等)」の割合が最も高くなっています。

	全体 n=110	身体障害者 n=48	知的障害者 n=44	精神障害者 n=11	難病患者 n=33	0～17歳 n=19
幼稚園・保育園	10.0%	2.1%	13.6%	9.1%	12.1%	42.1%
学校	21.8%	16.7%	27.3%	45.5%	24.2%	42.1%
仕事場	19.1%	16.7%	4.5%	27.3%	33.3%	5.3%
仕事を探すとき	12.7%	14.6%	0.0%	27.3%	15.2%	0.0%
外出先(買い物等)	50.0%	45.8%	63.6%	18.2%	33.3%	52.6%
余暇を楽しむとき	15.5%	18.8%	13.6%	9.1%	12.1%	26.3%
病院などの医療機関	24.5%	29.2%	15.9%	54.5%	30.3%	10.5%
住んでいる地域	19.1%	18.8%	18.2%	36.4%	9.1%	31.6%
その他	2.7%	4.2%	2.3%	0.0%	3.0%	0.0%
無回答	0.9%	2.1%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%

⑭成年後見制度の認知度について

成年後見制度の認知度については、「名前も内容も知らない」が34.2%で最も高く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が30.2%、「名前も内容も知っている」が28.8%となっています。

障害種別でみると、「名前も内容も知っている」は、身体障害者が29.3%、知的障害者が26.8%、精神障害者が16.7%、難病患者が31.4%となっています。

	全体 n=222	身体障害者 n=92	知的障害者 n=71	精神障害者 n=24	難病患者 n=70	0～17歳 n=35
名前も内容も知っている	28.8%	29.3%	26.8%	16.7%	31.4%	37.1%
名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	30.2%	31.5%	31.0%	45.8%	28.6%	28.6%
名前も内容も知らない	34.2%	31.5%	38.0%	29.2%	32.9%	34.3%
無回答	6.8%	7.6%	4.2%	8.3%	7.1%	0.0%

⑮成年後見制度の利用意向について

成年後見制度の利用意向については、「わからない」が45.0%で最も高く、次いで「考えていない」が37.4%、「考えている」が11.3%となっています。

障害種別でみると、「考えている」は、身体障害者が12.0%、知的障害者が19.7%、精神障害者が20.8%、難病患者が7.1%となっています。

	全体 n=222	身体障害者 n=92	知的障害者 n=71	精神障害者 n=24	難病患者 n=70	0～17歳 n=35
考えている	11.3%	12.0%	19.7%	20.8%	7.1%	8.6%
考えていない	37.4%	35.9%	28.2%	33.3%	45.7%	31.4%
わからない	45.0%	45.7%	49.3%	41.7%	37.1%	57.1%
無回答	6.3%	6.5%	2.8%	4.2%	10.0%	2.9%

## ⑩災害時の困りごとについて

災害時の困りごとについては、「投薬や治療が受けられない」が49.1%で最も高く、次いで「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が41.4%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が36.9%となっています。

障害種別でみると、身体障害者、精神障害者、難病患者では、「投薬や治療が受けられない」、知的障害者では、「周囲とコミュニケーションがとれない」の割合が最も高くなっています。また、知的障害者では、「救助を求めることができない」、「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」、「避難場所で、障害の理解が得られるか不安」の割合が、他の障害種別と比べて高くなっています。

0～17歳でみると、「避難場所で、障害の理解が得られるか不安」が51.4%で最も高く、次いで「周囲とコミュニケーションがとれない」が45.7%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」がともに40.0%となっています。

	全体 n=222	身体障害者 n=92	知的障害者 n=71	精神障害者 n=24	難病患者 n=70	0～17歳 n=35
投薬や治療が受けられない	49.1%	57.6%	43.7%	54.2%	62.9%	14.3%
補装具の使用が困難になる	7.2%	16.3%	8.5%	0.0%	1.4%	0.0%
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	9.9%	19.6%	11.3%	8.3%	7.1%	2.9%
救助を求めることができない	27.0%	29.3%	59.2%	25.0%	8.6%	34.3%
安全なところまで、迅速に避難することができない	36.9%	52.2%	53.5%	33.3%	27.1%	40.0%
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	16.7%	16.3%	31.0%	8.3%	7.1%	22.9%
周囲とコミュニケーションがとれない	32.9%	28.3%	67.6%	41.7%	10.0%	45.7%
避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	41.4%	47.8%	52.1%	33.3%	35.7%	40.0%
避難場所で、障害の理解が得られるか不安	34.7%	31.5%	59.2%	33.3%	20.0%	51.4%
その他	2.7%	3.3%	4.2%	4.2%	1.4%	5.7%
特になし	6.8%	4.3%	1.4%	4.2%	5.7%	8.6%
無回答	5.9%	7.6%	2.8%	4.2%	7.1%	0.0%

⑰障害者や障害児が住みよいまちをつくるために重要だと思うこと

障害者や障害児が住みよいまちをつくるために重要だと思うことについては、「働く場の確保」が39.2%で最も高く、次いで「市民の障害児者への理解を図るための、福祉教育や広報活動の充実」が37.8%、「介護の必要な重度の障害児者のための入所施設の整備（施設入所支援により日中は生活介護や訓練を受け、夜間は介護を受けながら暮らす場等）」が36.9%、「リハビリ（機能回復訓練）・生活訓練・職業訓練などの通所施設（生活介護、就労継続支援等）の整備」が35.1%、「福祉窓口の一本化や、相談支援体制の充実」が31.1%となっています。

障害種別でみると、身体障害者、知的障害者、精神障害者では、「介護の必要な重度の障害児者のための入所施設の整備（施設入所支援により日中は生活介護や訓練を受け、夜間は介護を受けながら暮らす場等）」、難病患者では、「働く場の確保」の割合が最も高くなっています。また、知的障害者では、「災害時における障害児者の避難誘導體制の確立と安心安全の確保」、難病患者では、「福祉窓口の一本化や、相談支援体制の充実」の割合が、他の障害種別と比べて高くなっています。

0～17歳でみると、「市民の障害児者への理解を図るための、福祉教育や広報活動の充実」が65.7%で最も高く、次いで「教育の充実」、「働く場の確保」がともに54.3%、「リハビリ（機能回復訓練）・生活訓練・職業訓練などの通所施設（生活介護、就労継続支援等）の整備」が48.6%となっています。

	全体 n=222	身体障害者 n=92	知的障害者 n=71	精神障害者 n=24	難病患者 n=70	0～17歳 n=35
市民の障害児者への理解を図るための、福祉教育や広報活動の充実	37.8%	32.6%	38.0%	33.3%	37.1%	65.7%
身近な地域で社会福祉活動を推進するための拠点となる施設の整備	23.4%	21.7%	26.8%	29.2%	27.1%	34.3%
居宅介護（ホームヘルプ）等訪問系サービス実施促進	19.8%	17.4%	14.1%	12.5%	30.0%	8.6%
介護の必要な重度の障害児者のための入所施設の整備	36.9%	35.9%	42.3%	50.0%	40.0%	28.6%
リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	35.1%	30.4%	29.6%	41.7%	41.4%	48.6%
教育の充実	25.7%	13.0%	25.4%	8.3%	30.0%	54.3%
働く場の確保	39.2%	31.5%	31.0%	33.3%	51.4%	54.3%
障害児者も参加しやすいスポーツ・余暇活動の援助や施設の整備	19.4%	10.9%	19.7%	16.7%	17.1%	40.0%
障害児者と市民がふれあう機会や場の充実	16.2%	9.8%	21.1%	25.0%	18.6%	22.9%
障害児者に配慮した道路・建物・駅などの整備	28.8%	27.2%	28.2%	20.8%	32.9%	25.7%
障害児者に配慮した住宅の整備	20.7%	18.5%	18.3%	25.0%	24.3%	20.0%
災害時における障害児者の避難誘導体制の確立と安心安全の確保	27.9%	26.1%	39.4%	16.7%	27.1%	31.4%
社会福祉の専門的な人材の確保・養成	28.8%	20.7%	35.2%	25.0%	31.4%	34.3%
福祉窓口の一本化や、相談支援体制の充実	31.1%	29.3%	29.6%	25.0%	35.7%	34.3%
ボランティア活動の促進と地域福祉活動の充実	13.5%	12.0%	15.5%	8.3%	14.3%	11.4%
障害児者に配慮した旅館・ホテル等の観光施設の改善、整備	19.4%	20.7%	19.7%	20.8%	25.7%	17.1%
生活訓練を支援するための福祉作業所の整備	22.1%	10.9%	26.8%	20.8%	24.3%	45.7%
公共交通の運賃の割引	28.8%	30.4%	15.5%	33.3%	38.6%	22.9%
障害者スポーツの普及、指導員の養成	10.8%	6.5%	5.6%	16.7%	15.7%	8.6%
その他	5.9%	4.3%	4.2%	0.0%	8.6%	8.6%
無回答	10.4%	10.9%	4.2%	8.3%	15.7%	5.7%